

柞

ナリ、又一種栗。カシハ栗ノ葉ニ似テ厚大ナリ、實ハ小ナラノ實ニ似タリ、

〔草木性譜人〕蚊母樹○中略

蟲窠を生ずる者一二種左に掲ぐ、

枹本草綱目近山に生ず、小木にして三四尺に過す、其葉春生す、槲に似たり、葉間に花を生じ實を結ぶ、花實俱に櫧の如し、夏中葉間或は枝條に毛毬の如き者を生す、ながらうと云ふ、初青翠、後褐色中に全く仁の如き者有て、其心中に一蟲あり、冬羽化して出づ、狀繩の如し、故にはひのきとも云ふ、

〔新撰字鏡木〕檜 尺紹 反波々曾

〔撮壤集中〕柞和聚名

〔饅頭屋本節用集波草木〕柞

〔倭訓案中編二十〕ははそ 和名抄に柞をよめり、越前にほうさといふ、詩疏に秦人謂柞爲櫟とい

ふによれり、新撰字鏡に檜をよみ今小ならいしなら、西國にならこうといふ、又樹をよめり、ははしがしはともいへり、歌には、そのもみぢなどよめり、万葉集に柞を直に母の事に取なしたる歌あり、又は、そ葉の母とつゝけるは語の同じければなり、柞杜は相樂郡の祝園をいふ、

〔萬葉集十九〕慕振勇士之名歌一首并短歌

知智之寶乃父能美許等波播蘇葉乃母能美己等於保呂可爾情盡而念良牟其子奈禮夜母○下

〔新撰六帖〕は、そ

さほ山の柞のもみぢ玄ぐれねど色に出べきときは玄りけり、

家良

みねつゝく外山のすその柞原秋にはあへすうすもみぢせり

〔和漢三才圖會八十七〕柞作俗云波々曾

又俗稱保於曾、大和有名柞園一地、大